

各関係機関長 様
各関係者 様

佐賀県農業技術防除センター所長

野菜類、花き類でのクロテンコナカイガラムシの発生に注意してください

クロテンコナカイガラムシ（学名：*Phenacoccus solenopsis* Tinsley）については、平成 25 年 10 月 18 日に県内の施設ナス圃場で初めて発生を確認し、病害虫発生予察特殊報（平成 25 年 12 月 24 日付け第 1 号）を発表したところですが、本年 8 月下旬に県内の別の地点で**新たな発生が確認**されました。

本虫は多くの野菜類、花き類に発生し、多発生すると作物の生育が阻害され被害を生じるため、早期の対応が必要です。

野菜類、花き類の苗及び栽培圃場では、下記を参考に発生状況を確認するとともに、防除対策を徹底してください。



写真 1 クロテンコナカイガラムシ成虫

記

1. 今回の発生状況

平成 28 年 8 月 22 日及び 25 日に、農業技術防除センターにオクラ及びナスに発生した害虫の同定依頼がなされ、形態観察による判定の結果、クロテンコナカイガラムシと同定された。さらに、発生圃場での調査の結果、トマト、キク、その他花き類、雑草類でも発生が確認された（写真 3～6）。

2. 本種の形態、特徴等

雌成虫は翅を欠き、体系は楕円形。体長は通常 3～4.2mm 程度であり、大きい個体は 5mm を超える。背面に白色のロウ質物を分泌し、全体としては白く見えるが、ロウ質物は垂中央部で薄くなるため、2 齢幼虫以降はルーペ等で観察すると一見 2 対の黒斑があるように見える（写真 1）。成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均で 350 個程度産卵する。本虫の単為生殖個体群における 1 世代の発育期間は平均 70 日程度である。

本虫はこれまで佐賀県その他、福岡県及び沖縄県でも発生が確認されている。

3. 被害

本虫は広食性であり、海外ではワタ、オクラ、トマト、ナス、雑草等 53 科 154 種の植物に寄生することが確認されている。今回も野菜及び花き類の他、周辺の雑草での発生が確認された（写真 7）。本虫が多発生すると作物の生育が阻害される他、本虫が分泌する甘露によって発生するすす病（黒いすす状のかび）により果実等に汚れを生じる場合がある。

4. 防除対策

- 1) 茎葉（特に生長点付近）への成幼虫の寄生（写真 2）とこれらが分泌する甘露及びそれによるすす病を目安に早期発見に努める。また、本虫はポット、支柱等の資材や圃場周辺の雑草にも発生する場合があるため注意する。

- 2) 発生を確認した場合は、発生部位を植物ごと切除して施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。
- 3) 現在のところ、本種に適用のある農薬はない。
- 4) 本虫、或いは疑わしい害虫の発生を認めた場合は、農業技術防除センター又は最寄りの農業改良普及センターへ連絡する。



写真2 成虫及び幼虫



写真3 ナスでの発生



写真4 オクラでの発生



写真5 トマトでの発生



写真6 花苗での発生(朝霧草)



写真7 雑草(スベリヒユ)での発生

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088 TEL (0952) 45 - 5297 FAX (0952) 45 - 5085
--